

令和5年度第3回仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会議事要旨

日 時：令和6年2月27日（火）

13時30分～17時00分

場 所：青葉区役所7階会議室

出 席：青木委員長、小川副委員長、荒井委員、
齊藤委員、丹治委員

※過半数の出席により委員会成立

1 開会

2 挨拶 仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会委員長 青木 ユカリ

3 議事

(1) 議事録署名人選定 齊藤委員

(2) 令和6年度まちづくり活動助成申込事業 事業計画説明会

◇各団体プレゼンテーション

◇質疑応答意見等

① 特定非営利活動法人 作並・新川地区活性化連絡協議会

委員 増刷を見込んでいるパンフレットの形状や仕様は今までと同じか。

説明者 マップはコースごとに3種類作っている。形状は変わらないが、閉店したお店の名前や見所を変えるなど考えている。

委員 そのような情報のサイトとの連動は、どのようにお考えか。

説明者 ホームページにマップ全体は載っているが、一つ一つのコースを説明するところがない。各コースのマップを入れ、紙媒体だけではなく、スマホなどを見ながら歩けるようにしたいと考えている。

委員 スマホなどでSNSの情報を片手に巡っていくというスタイルが多いかと思う一方、紙媒体もその意味があり、現地に足を運ぶと紙が必要なところ、別な視点で見るといふところもあり、その組み合わせ、利用の仕方も連動すると思うが、その辺も含めて単体の媒体というよりも連動してどう生かすかという視点を持っていたらと思いついた。

委員 花たんぼ祭での地場製品の販売やクレスンなど、地場のものを売ることが、団体の収入、収益に繋がってくる方向性はあるか。

説明者 協議会としてある程度収益を上げて活動費に充てることを目指しており、武者だいの会を協議会の中に立ち上げ、メンバーで年2回加工作業を行い販売し、作並温泉旅館組合で去年は3,000個ぐらい客に提供するというところでやっているが、なかなか規模が大きくできない。高齢者が多く、手間暇かかる作業なので、皆さまにお小遣

い程度の作業代を払い、あとは協議会の方に協賛金というかたちで少し入れるというのが精一杯だ。クレソンについても、自然のものなので、増やそうという取り組みをしているが、収益を上げるまでは行っていないというのが実情だ。

委員 紙媒体とホームページ等のリンクは大事であるが、ホームページの改修費に10万円という大きな金額の計上は外部に委託するのか。

説明者 外部に委託をして改修をしたいと考えている。

② 一般社団法人 芭蕉の辻まちづくりの会

委員 城下町仙台を前に出していきたいということは素晴らしいと思う。観光の目線や市の施策としてもぜひ取り入れる内容だ。行政の関わりをもう少し深く、予算でも助け合いができればと思うが、行政とのやりとりはどう進んでいるのか。

説明者 まちづくり推進課との連携は当然だし、文化観光の部署とも今後話し合いができればと考えている。新たに巨大な看板を作る、地図を書き換えるなどではないため大手門通りにするのにお金はかからず、皆さまに広く受け入れてもらいやすいかと思う。

委員 告知の活動を観光部署の人と一緒にというところまでは進んではいないのか。

説明者 今スタートラインに立ったばかりだ。アドバルーンを上げ、皆さまからいろいろな意見、アイデアをさらにいただけていると思っている。

委員 講師謝礼について、令和5年で3名、令和6年は2名予定で、金額が9万から10万になっており、役員あるいは会員名簿に名前がある方が登壇するケースもある。どういう基準で講師謝礼の支払い体系を設定しているのか。

説明者 講演会に登壇するのは役員というよりアドバイザーの先生だ。東北大学の名誉教授や郷土史家の先生という区別、初めて依頼する方にちょっと気持ちがついているという部分でご理解いただきたい。

委員 やはり客観的な基準を持っておかないと、活動を継続していく中で揺らぎがあると計算上あまりよろしくないかと思うので、その点は内部でクリアにしておいていただければと思う。

委員 大手門通り実行委員会事業でまち歩きツアーに新しく取り組むとのことだが、参加費はどうする予定か。

説明者 検討中だが、資料代、保険代程度かと考えている。講師はアドバイザーの先生であり、謝礼は少額で済むかと思っている。

委員 何名ぐらいの予定か。

説明者 まち歩きなので大勢ではできないので、せいぜい20人掛ける2回かと。会場は緑彩館などを使うかたちで考えている。

委員 印刷代はチラシを作ることによろしいか。

説明者 検討中だが、芭蕉の辻や大手門という歴史に関わることを説明できるようなパンフレットも考えたいと思う。

委員 会議3回で12万の予算だが、1回4万ぐらいの会場費を想定しているという理解でいいか。

- 説明者 これから実行委員会が立ち上がり、どこでどういうふうに会議ができるか検討中であり、とりあえずそれぐらいはかかるのではということ計上した。
- 委員 七夕の短冊や仙台のおまつりの絵画展は学校との連携を考えているということで、参加予定が今年度と同じ9校だが、もう少し増える感触はあるか。
- 説明者 学校の判断となり、1度やっている学校は、校長・教頭先生にご理解いただけるが、こちらはウエルカムの姿勢で声はかけているつもりだが、新しいこととなるとなかなか難しく、間違いないのが9校ということだ。
- 委員 積極的にいろいろな学校が参加するように導きいただけるとありがたい。まち歩きなど、市民センターや文化財の部署、博物館との連携は考えているか。
- 説明者 我々は博物館のガイドを長年やっており、博物館あるいは緑彩館との協力というのでもできるかと思っている。市民センターとも繋がっていきたいが、少人数でやっておりなかなか回りきれてないというのが正直なところだ。
- 委員 例えば市民センターと共催にはならないにしても、うまく繋がっていくと、会場費をだいぶ削減できるという考えもあり、ぜひ活用できる場所をどんどん活用いただきたい。
- 委員 大手門通りという名称について、まち全体に強制するわけではないというようなお話だったので安心した。

③ 関山街道フォーラム協議会

- 委員 支出予算で繰り越しが予定されているが、仮に令和7年度に繰り越すのであればそこで予定されていることがあってのことかと思うが、教えていただきたい。
- 説明者 毎年のように繰越金を出している。仮に助成金などがなくなったときにも、10万円程度を確保しておけばフォトコンテストの景品などをカバーできるということだ。
- 委員 ワークショップについて、初年度は支出ゼロだが、本年度30名程度2回開いて14万8000円、市の助成金の半分近くをここに充てているが、どういうものを計画しているのか。また、ぷらっとカフェの会場費があまりないが、場所はどこか。
- 説明者 ワークショップは、助成金をもらう前の年に錦ヶ丘コミュニティセンターで、活動事例紹介や講話、あとファシリテーター役の方を4人ぐらい呼んで1回やった。それを山形県側でもやり、最終的には合同で2回開催を検討している。テーマは仙山線沿線の関山街道と宮城県側でやった時には広瀬川、全線にわたっての観光資源を使ってどんなことができるかという話をさせていただいた。ぷらっとカフェは、定義観光協会に協力いただき会場を使わせてもらったり、市民センターの調理室を使ったりなどで会場費が抑えられている。
- 委員 今年度の予算で、1年目と比べると協賛金や協賛団体からの収入は少し多めに予算立てをしているが、この辺りのふやせる要因を教えていただきたい。非常に多様な財源の構成で事業が成り立っており、助成の部分がどこ切り分けるのは難しいと思うが、継続の観点を考えたときに、どのように自主事業や、支援的な資金を想定していくかということは大事だと思う。参加費を得られるのはそちらで支出を賄うという考

え方だと思うが、そこについても考え方を伺いたい。

説明者 協賛団体は、協賛いただいている団体がすでにあり、それプラスアルファだ。街道ということもあり土木関係の会社などにも声をかけ始めているし、風景街道になった場合には商工会関係の方々にも協力いただきたく、そういうところにも声かけが必要かと思っている。今までコロナもあり活動自体も自分たちだけでやっているところもあり、なかなか声かけができなかったが、これからは多様な団体に協力いただけるようにやっていきたい。ぷらっとカフェは基本的に参加費を取っており、嶺渡り等も2,500円ほどいただいているので、なるべく参加費を取り、助成金がなくなってもカバーできるようにしていきたい。

④ 一般財団法人 YWCA

委員 参加する方は、上杉地域の方が多いいのか。

説明者 上杉近辺の方が多いいが、広報のおかげもあり、泉中央ののびすくでチラシを見たて来る方、手仕事の内容に興味があり太白から来る方もいた。

委員 新しく子連れが参加できるワークショップを追加しており、すばらしいと思った。開催場所が、会場費もなしで自団体で全部やり、このようなワークショップを年7回も開催することが、親子にとっては心強い中身だ。保育者の確保が難しいため金額を上げたとのことだが、保育者にかかる1万円の積算の根拠を伺いたい。新規事業の音楽ワークショップについて教えていただきたい。

説明者 保育者は朝9時から12時過ぎぐらいまでとなるが、その前のミーティングなどにも参加しており、謝礼の気持ちも込めてということだ。保育用品は、年齢に合わせてその都度おもちゃなどを持って来てもらっている。有資格者をお願いしており、子育て相談ではないが、ワークショップの後少しお話してもらったりもする。

委員 交通費なども入っているということだ。

説明者 ワークショップの内容だが、編み物や新聞バッグ、防災エコグッズ作りなどをこれまで実施してきており、その中から好評だったものをと考えている。リサイクルや持続可能なもの、編み物もそうだが、編んでほどこいてということをやってきたおばあちゃんたちの知恵が詰まっているものを予定しており、新年度前に具体的に決めていきたい。音楽ワークショップは、ピアニストの方と声楽の方をお呼びしてリトミックのようなことをしたり、子供が遊べるマラカスを作って遊ぶなど、少し物作りを入れたいと思っている。

委員 チラシの話があつたが、広報資金を抑えるためにも、SNSだとフェイスブックよりインスタグラムの方がお母さんたちは見ているので、あるといいかと思う。

委員 企画内容については関係する方々で考えながら組み立てており、音楽ワークショップもチャレンジされるというところで、試行しながら段階的に取り組んでいると思った。チラシの発行が3回とあるが、これは日時を分けて何段階かで発信するのか。

説明者 昨年度までは、前期、後期の2回製作していた。今回は、前期、後期と音楽ワークショップということで3回とした。

⑤ せんだい 21 アンデパンダン展実行委員会

委員 フォーラスが閉鎖になり、開催のところも難しく苦勞していると思う。グッズの製作費は4万円だが、何を作るのか。

説明者 去年作ったエコバッグは在庫を抱えているので、他のものを作る。キーホルダーを付けたら売り上げが増えたので、キーホルダーを作ったりしようかと思っている。

委員 応募者が増えれば、必然的に会場のスペースを広げなくてはいけないということで、それに必要な経費は比例するわけだ。そこで支える仕組みを考えたときに、一緒に考えたり応援したりしてくれる地盤の方をふやすのはもちろん、今回むかでやにご理解いただき会場が増えたことは、一つの広がりになると思った。そういったところが増えていく部分で応援ができる側面と、活動発表者のみだけでなく、表現はしないけれども取り組みを応援する人たちがグッズを買うなど資金的な応援の仕組みができるといいかと思うが、可能性を伺いたい。

説明者 フォーラスのエントランス前という人通りの多いところを有効活用したいと思っている。アンデパンダンは販売しないので、販売すると事務局にも中間マージが入るといいう仕組みがあり、そういうことも含めて考えたいと思う。

⑥ セカハピ団仙台青葉本部

委員 2018年にオンラインではなくてリアル会場でやったときに、企業協賛は8社だったが今回3社と以前よりも少なくしたのはなぜか。また、民間だと出演する側がお金を払って出るようなかたちだと思うが、演奏する方から出演料を取るのか。

説明者 企業協賛について、以前はコンサートを何回か重ねていった上での担当者との信頼関係で8社まで増えたが、最初は2・3社だった。実施しなかった2年間を経て、もう一度自分たちでできるように、最終的には10万円以上の企業協賛が必要になってくるが、地元で気持ちをわけてくれる方との出会いかと思っている。出演料の件だが、今まで参加費あるいは個人協賛で先生方からいただいていた。予算が苦しくなったらそうなるが、先生たちはたくさんの時間を割いて、一緒に出る生徒の指導をプラスアルファでしているので、せめて名前を出して一緒にやる方には、団員外ということで謝金を出したい。

委員 団員は何名ぐらいいるのか。また、郵送代が1万5000円だが、何を郵送するのか。

説明者 郵送代はA4のチラシの送付費用で、団員が忙しくてどうしても届けられないという場合に過去に使っていたので、減る可能性は高い。団体の人数は6名で、初期の頃から一緒にやっているメンバーだが、ここからコンサートに向けて無償で一緒にやってくれる方をふやしていきたい。

委員 子どもが多い錦ヶ丘地区で、親子が参加する対面のコンサートが実施されるということで、すばらしいと思った。参加できる親子の組数の想定はどれくらいか。チケットが1席500円の300席となっているが、金額的にもう少し広い場所かと思う。また、

年間1、2回だけのイベントで終わるのではなく、皆さんが繋がり合うような工夫がされているのか。出店を予定されている10名の方々はどんな方がいるのか。

説明者 大ホールのキャパシティーは400から450だが、販売実績で200ぐらいだ。膝の上の子どもは無料だが、当日空いていた場合は隣に入ったりするので、会場としてはそれなりに埋まっている印象だ。私たちとしては400枚売る気持ちでやっている。チケットがなぜ500円かと言うと、500円以上になると会場費が高くなってしまう。実績を積んですてきな会だとわかってもらえたら、1,000円にすることも将来的には可能だと思う。会場費などすべて2回の費用を計上しているのでもし1回の場合は、1回の予算内でできるかたちと思っている。出店の方々は大体個人で活動しているお母さんたちになる。

⑦ 仙台・杜の都のクラフトフェア実行委員会

委員 商店街のマップ作りだが、リーフレットのデザイン料や印刷費に結構お金が出るかと思うが、むしろ商店街がリーフレットによって宣伝をしてもらえことから、商店街からの協賛金が得られるのではないかとも思うが、どのようにサンモール商店街と接点を持ってきたかというところを含め、可能性をお教えいただきたい。また、申し込み料の100名×1,000円は、講座や工房ツアーの参加費か。

説明者 今まではクラフトフェアは、開催すること、仙台の人にクラフトのよさや面白さを伝えることが目的だったので、あまり商店街の方とは接点はなかった。ただ、すごくいいイベントだという評価はいただいており、毎年商店街も楽しみにしてくれていた。我々実行委員がなかなか企業に協賛を頼むなどに時間を割くことができなかったが、委員が少し増えたので、もう少し商店街と接点を持ち、新しい展開ができるということにきている。申し込み料は、作家が審査に申し込むときの料金だ。今まで私たちは、しっかりとしたリーフレットを作ることも大事にしており、家に帰ってすぐ捨てられてしまうようなものではなく、作家の情報が入り、クラフトフェアで出会い、そのあとも繋がっていけるようにしたいため、リーフレット制作にお金がかかっている。

委員 商店街の中でこういうイベントを計画するのは、なかなか大変なことだと思った。クラフトフェアの選考はどのようにしているのか。また、サンモールの会場費はサンモール商店街の振興組合に支払っているのか。

説明者 会場費はサンモール商店街の振興組合に支払っている。クラフトフェアでプロあるいはプロを目指している人たちを支援したい、育てたいという気持ちが強く、審査をして、この方は明確にプロを目指してるとは思えないという方もいるし、仕込んだ商品を持ってきて販売するという方などもいるため、苦渋の決断をしている。

委員 審査員はいるのか。

説明者 実行委員全員で見ている。まずプロフィールを見て、個展などの実績もプロフィールから判断している。写真審査では、実行委員全員が申し込んでいる作品以外のものも見たいなどの意見で選考している。仙台で我々が見せたいと思う作品という視点、あとは陶芸やガラスなど作品の種類バランス、地域性のバランスも考えて選んでい

る。

委員 工房ツアーはタゼンの他にはどういったところに行くのか。

説明者 仙台箆笥や玉虫塗りだ。

委員 何人ぐらい集めて行くのか。

説明者 10人から15人ぐらいだ。タゼンからスタートして、仙台箆笥の歴史工芸館に行き、玉虫塗りに行くという、大体2キロぐらいで各工房で話を聞きながらいくと、2時間ぐらいのツアーになるかと思う。

委員 商店街マップ作成は、サンモール商店街とその周辺の野中神社など、そういうところも含めての地域のマップということか。商店街だと、店の名前を入れる入れないなど利害関係もあるかと思うが、うまく調整を今後していくのか。講演会とツアーの委託料約18万は外部の業者に委託するのか。

説明者 外部に委託する。マップに関してはこれから具体を詰めていくが、もし一つ一つのお店ということであれば、地元資本の方達となると思うが、いきなりそこまで深く入り込めるかわからないので、その辺りは手応えを掴みつつ、最初は商店街の成立の由来から1年目は調べたり、野中神社などの歴史を調べたりなど、そういうところから始め、だんだん深くお互いに関わっていきけるようになれるといいかと思う。

委員 その周辺は歴史も含めて魅力あるものがたくさん接続されている部分だと思し、商店街とうまく連携できるとよりよいものができるかと思う。

委員 クラフトフェアは独立して採算が取れてやっている事業だったら別事業としてやった方が、わかりやすいかと思った。クラフトフェア自体の収益が見込まなかった場合に補助金がクラフトフェアの方に回ることがないのか。また、全国から作家が来るが、青葉区のまちづくりの補助金を使って新しくやりたいというポイントを伺いたい。

説明者 最初は新規事業だけの中身で申請をしたが、この新規事業はクラフトフェアと表裏一体になっている事業だから、クラフトフェア全体のものを出した方がいいのではと指導されて、出し直した。

委員 配布先がクラフトフェアであるからこそ実施できる事業だということか。

説明者 もともとクラフトフェアは物販のイベントだったが、2日間で2万人ぐらいの方が来るという状況があり、それをまちづくりや地域活性化にうまく利用できないかというのがスタート地点だ。例えばツアーに参加される方10人にしか伝わらないことを、フェアで6,000部ぐらいの配布物を配ると600倍の方達に対してアピールできる。その方たちはツアーには参加しないかもしれないが、クラフトの好きな方向けにアピールする戦略だ。

委員 新規の取り組みの意気込みや商店街への恩返しの思いもあつての今回の取り組みかと思う。講座やツアーは委託することだが、参加費は無料なのか。

説明者 無料を考えているが、体験をするとすると体験料や材料費は実費を徴収せざるをえないかと思う。

委員 クラフトフェアの事務局で参加費を徴収するのか、そこも含めて委託か。

説明者 そこも含めて委託する。

⑧ 一般社団法人 Granny Rideto

委員 ラジオをインターネット経由で配信するが、アーカイブ機能がありいつでも過去のものを振り返ることができるが、冊子を作るのはなぜか。何らかの成果報告的なものを文字化するというのであれば、インターネット上で記録として残すという形でいけるのではないか。

説明者 後世に長く残したいと考えたときに、一番残りやすいのはデータではなくものだと思った。例えばクラウド上にデータをアップすると半永久的に残ると思うが、会社がつぶれたなどでそのサービスが停止してしまった場合、データがすべてなくなって取り返しがつかなくなってしまう。もう一つの理由が、春日町、特に町内会の関係の方々が高齢の方が多く、よりいろいろな世代の方に気軽に情報を受け取ってもらうために、冊子という活字媒体が必要だと思った。

委員 高齢の人のアクセス問題はわかるが、本体としてラジオ配信というところがあるのであれば、そこをどう高齢世代がアクセスできるか、そこが大事になってくると思う。高齢でも 70 代 80 代ぐらいは比較的使えるので、冊子の有用性、記録というものをどういうふうに蓄積していくかをお考えいただきたい。

委員 地元の住民や店主も登場することだが、地元の方への事前のコミュニケーションがあれば、どんな反応だったか伺いたい。

説明者 春日町の町内会とのつき合いはコロナ前からあるが、町内会も人手不足のため負担をかけるようなかたちではやりたくはないと思っている。ラフな形での話しかできていないので、まずはお話を聞く、ゼロのところから一緒にできればいいと思っている。

委員 どういった地域になったら、今課題になっている地域の状況がこれをきっかけにこうなったら、という思いがあれば教えて頂きたい。

説明者 若い人と昔からいる人の接点がなかなかないということなので、そこを新しく繋いでいきたい。祭りが減ってきており、そういうものを広げていきたいということであれば、昔のように戻していくこともやっていく必要があると思う。またエリアとしては狭いので、そういう狭いエリアの活性化みたいところがモデルになって、他のところにも新しい可能性があるというのを見せていけるといいかと思っている。

委員 満額が助成されない場合でも、この計画通りの取り組みをするのか、予算に応じた調整をするのか。

説明者 広報面でポスターを削ったり、冊子の発行ページや部数を減らすことやデザイン面で削減をしようかと考えている。

委員 リスナーは、広がりも含めてどのくらいのイメージで考えているのか。また、情報発信や地域の文化を活性化する役目を持っているメディアテークなどとの連携は想定しているのか。

説明者 リスナーだが、会場の THE6 の収容人数が限られており、その場で聞きに来る方は 10 名から 20 名程度と想定している。多方面でこれまでの取り組みに興味を持っている方々に呼びかけて、Granny Rideto 的まちづくりとして、発信をしていけたら、それなりに集客ができるのかと思っている。メディアテーク等との連携については、この事

業を2年3年続けていく予定なので、まずはTHE6から始めて、今後規模を拡大していけるとなった時に、メディアテークで例えば公開収録を行うといったことも考えられるかと思う。

⑨ 台原地区の防災を考える会

委員 会員が5名だが、中心的に動くのは会員のみなのか、一緒にやっていく仲間が増え始めているのか。

説明者 今現在は5名だが、中学校、小学校の保護者、現役の世代に向けてアンケートや私たちの活動をお知らせするというのを計画しているので、その段階でどなたか賛同してくれる方がいるのではと予想している。

委員 アンケートの設問などは外部の応援を得たり詳しい方に相談したりするのか、メンバーで全部設計をする予定か。

説明者 メンバーが10年間地域で活動してきた住民のリアルな声を蓄積してきたので、それを生かす。それから大学の地域まちづくり専門の教授や、多賀城高校の災害科学科の先生と生徒に知恵を借りようと思っている。

委員 調査やヒアリングが年の前半に計画されているが、実際動いていくと、調整に時間がかかる、アンケートの回答によってこういった必要性がどうなのかというようなことも見えてくると思うが、概ね進められるという見通しか。

説明者 中学校と小学校の保護者をアンケート対象としたのは、Googleフォームでの回答が可能な世代というところだ。集計が簡易であり、すぐに数値化できる。前半で調べた結果をもとに、何を周知すれば防災の意識を持ってもらえるのかということ、私たちの中に構築した上で、秋の会議をしたい。

委員 情報交換会は誰を対象にしたどのようなイメージのものか。

説明者 近隣の既存の団体で防災に既に関わっている方達、学校長、高校生のほか、大学の先生に学生も許可してもらえれば大学生からも伺いたい。既存の自治会が高齢化しており、そこで何かをやってもらうというよりは、これからの若手がどういうふうに関わったら動くかというところに絞っていかうと思っている。

委員 避難所運営とあるが、正式な避難所以外に、自宅避難や別な避難の部分もあるので、想定される避難が必要になる事柄という部分での視点も持っていただきたい。

説明者 アンケートを通じて、避難所に行ったら市の職員がすべてやってくれると思っている方がほぼほぼだが、そうではなく、避難した人の中で運営していくということを伝えたい。

委員 4月から7月のスケジュールはタイトであり、少なくとも1.5倍の時間がかかると想定をした方がいいのではないかと。アンケート、ヒアリング、分析で一定程度のアウトプットを出すのに、4ヶ月で走らせるのは厳しい。アンケートに関し、小中学校と各保育園の配布部数から、その地域にお住まいの方よりは若い方々となり、世代的な偏りが若干出てくるのではないかと思う。講師謝礼20万円は何人ぐらいの方なのか、遠隔地等から講師として登壇をしていただく場合の交通費や宿泊費を加味した金額なの

か。

説明者 大学の先生方に今のアカデミックな最新情報を教えていただきたいと考えているが、必ずしも市内の大学の先生でも、仙台から来るとは限らないため、このような金額とした。

委員 実際に被災をしたときに、組織を作ってもすぐその組織が活動できるかというとなかなか難しい。地域の中で、市民センター、小中学校、民児協、各連合町内会も含め町内会、社協、赤十字、地域の消防団、警察、消防署、包括支援センターなどが集まって、消火訓練など何かやってくれるので、1回お話を聞いてみる。私たちの地区も最初は動かなかったが、範囲を広げて参画する人を集めることによって、防災の体制やマニュアルづくりなどが徐々に進んできた。

説明者 この10年いろいろな長にそのような活動をお願いし続けてきたが、動かなかったというのが、今回のプロジェクトを立ち上げる理由だ。中から動くのは難しいので、外からまず考えてデータを出すことから始めたい。

委員 その地域しかわからないことに取り組まれようとしていると感じた。防災の集いの場所代や中身の事業の予算が計上されていないがどうか。また、地域住民の方向人ぐらいを想定しているのか。

説明者 場所は学校を想定しており、学校側もご協力くださるということで、講師代以外にはあまり大きなお金をかけずとも実施できそうだ。

委員 小中学校の保護者やファミリー層、それから若い世代、民間も含めた皆さんをターゲットとして、防災の集いをやるということか。

説明者 今まであるような防災の組織を作りたいわけではない。組織を作ると組織に加入した人はそこに行かなければいけない。その人が行かないと動かないということになるので、そうではなく、防災のシステムを考え出さなければいけない。そのシステムを作るきっかけとして、現状を知りたいと思っている。

委員 これがうまくいき、継続した後には、既存のシステムも動き始める動きが必ずあるはずなので、協力し合いながら進むことを受入れることは考えているか。

説明者 もちろんずっとそれを願っていた。

(3) その他

4 閉会

以上の内容について、相違ないことを認めます。

署 名 人 _____ 印

議長（委員長） _____ 印